

那珂市名誉市民紹介

みやもと いっぞう

(故) 宮本 逸三氏

安政6年10月21日〜昭和5年4月15日

(1859年)

(1930年)



◆功績の概要◆

安政6(1859)年、金砂郷村下利員(現在の常陸太田市下利員町)の須藤家に誕生し、幼名を熊之介といいました。明治9(1876)年18歳の時に鴻巣村(現在の那珂市鴻巣)の宮本家の養子になり、宮本逸三と改名しました。

宮本家は古くから醤油醸造業を営んでいましたが、明治26(1893)年に氏が家督を継ぐと、その優れた商才を生かし、肥料の販売など新規事業を成功させ、事業を拡大していきま

した。氏の養父宮本逸平は地域のリーダー的な存在であり、明治22(1889)年発足した芳野村の初代村長を務めていました。

氏は、明治18(1885)年27歳の若さで茨城県議会議員に当選し、明治37(1904)年に退任するまでの20年間県政に尽力しました。

明治22(1889)年芳野村会議員に当選、明治26(1893)年6月には養父逸平の後をうけて、芳野村長を兼任し、在職11年の間、郷土の発展に貢献しました。

県議会議員在任中の明治24(1891)年に、那珂郡役所の新築問題が起きました。当時那珂郡役所は菅谷村(現在の那珂市菅谷)の不動院に置かれていましたが、明治23(1890)年に公布された新府県制・郡制法を機に那珂郡役所を湊(ひたちなか市)へ新設しようとする運動がおこったのです。

この時、氏は、那珂郡の位置および将来性から判断してこれまで同様菅谷に新築する運動の代表として周辺村長をとりまとめ、菅谷村に郡役所を新築するため尽力し、明治24(1891)年に菅谷村に那珂郡役所を新築することに決定しました。これによりその後、菅谷地区は大きな発展を遂げることになりました。

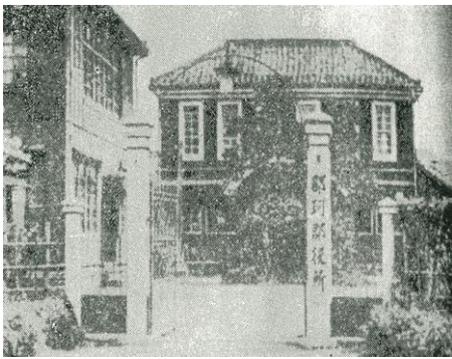
さらに、大正6(1917)年、同13(1924)年の2回にわたり衆議院議員に当選しました。

また、立憲政友会茨城県支部長を歴任し、本県政界の重鎮として活躍しました。

特に地方交通の発展に留意し、大正6(1917)年に水郡線延長問題がおこると度々政府に陳情し、大正7(1918)年10月芳野地区に常陸鴻巣停車場(現在の常陸鴻巣駅)の設置を実現させました。

また大正10(1921)年には同志とともに水濱電車株式会社を設立するなど、交通機関の発達に尽力しました。

昭和3(1928)年の任期満了まで衆議院議員を務め、政界を引退して間もない昭和5(1930)年4月15日72歳で永眠しました。



菅谷村(現在の那珂市菅谷)に新築された那珂郡役所

◆名誉市民選定の理由◆

那珂郡役所を菅谷村に誘致した功績は、その後の地域発展に大きく寄与し、今日のまちの姿の基礎をつくりました。また、水郡線の常陸鴻巣停車場敷設に尽力し、地域の公共交通の整備に多大な貢献をしました。

氏は政治家としてだけでなく、起業家としても地域の産業や地域社会のことを考え、地域活性化に貢献してきました。その功績は誠に顕著であり、郷土の誇りとして尊敬に値するものと認められるため、名誉市民として選定しました。

【略年表】

1859年(安政6年)	金砂郷村で生まれる
1876年(明治9年)	鴻巣村の宮本家の養子となる
1885年(明治18年)	茨城県議会議員に当選する
1889年(明治22年)	芳野村会議員に当選する
1891年(明治24年)	菅谷村に郡役所の新築決定
1893年(明治26年)	芳野村村長に当選する
1896年(明治29年)	那珂郡会議員に当選する
1917年(大正6年)	衆議院議員に当選する
1918年(大正7年)	常陸鴻巣停車場設置
1921年(大正10年)	水濱電車株式会社設立に参画
1924年(大正13年)	衆議院議員に当選(二期目)
1925年(大正14年)	普通選挙法成立
1928年(昭和3年)	水濱電車株式会社設立に参画する
1930年(昭和5年)	衆議院議員任期満了 政界引退
	72歳で逝去